

第3 問題作成部会の見解

世界史 A

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

第1問は、19～20世紀に活躍した人物の、異文化圏での経験とその後の本国での活動に関するテーマを設定し、異文化経験の意義や役割等について、その意義を考察する中で問いが構成されている。

Aでは、エジプトのウラマーのパリ滞在記を資料とし、フランス七月革命について、既習の知識と史料の読み取り内容を関連付けて考察する力や、エジプトやイスラーム世界における近代化の理解を問うた。問1は正答率が低めであったが、全体として正答率・識別力とも概ね妥当であったと考えられる。

Bでは、魯迅と汪兆銘の著作や発言を素材として、近代における日中関係史上の出来事や中国の都市の歴史について、既習知識と、資料や会話文から読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。いずれの小問も極端な解答結果は出しておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

第2問

第2問は、「史資料の読解」をテーマとし、それぞれの時代に見られた風刺画や教科書などの資料の読み取りを基に解答させる問題である。

Aでは、第1次・第2次バルカン戦争に関する風刺画を素材とし、第一次世界大戦以前のヨーロッパの国際関係に関連する知識と、風刺画から読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出しておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

Bでは、フランス第三共和政期の小学校教科書を素材とし、国民国家の形成を時系列的に理解することができているか、また国民国家形成の内容を概念的に捉えることができているかを問うた。全体として正答率は低かったものの、世界史A全体の平均点を考慮すれば、妥当であったと考えられる。

第3問

第3問は、「歴史上に見られた人やモノの移動」をテーマとし、世界の諸地域における社会や産業の発展への関与について解答させる問題である。いずれの小問においても極端な解答結果は出しておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

Aでは、西アジア地域におけるガラス製品とその製作技術の伝播の歴史的な意義について、既

習知識とリード文から読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。

Bでは、アメリカ合衆国の人口動態に関する統計を素材とし、近現代における世界史上の出来事について、世界史で学んできた知識とグラフから読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。

第4問

第4問は、「芸術や宗教、文字などの文化や思想の歴史と政治との関わり」をテーマとして、歴史上の政治的な出来事を研究する上で、絵画や宗教などの文化史的業績や事象から考察することの意義や意味などについて問うた。

Aでは、「プラド美術館展」に展示される絵画を基に、絵画に描かれたモチーフについての政治的な意味や意義について話し合う場面を取り上げた。いずれの小問も、正答率・識別力の点で妥当であった。

Bでは、中国の北方民族に関する内容的理解を踏まえ、西夏文字の特徴とその成立背景、モンゴル帝国の広域支配に関する歴史的事実、清の外交条約における満洲文字利用の理由を類推できるかを問うた。正答率は、問4・6はやや高め、問5はやや低めであったが、全体としては妥当であった。

第5問

第5問は、歴史上に見られた国際秩序の形成とその背景をテーマとし、第二次世界大戦後の国際社会を舞台に見られた諸国家や諸勢力のそれぞれの思惑について考察させる問題である。

Aでは、大西洋憲章を題材とし、イギリスとアメリカの思惑と、アフリカの旧イギリス植民地の反応が複雑に影響しあう背景を、歴史上の出来事と関連付けて考察する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出ておらず、問1・2の正答率はやや低めであるが識別力の点で妥当であった。

Bでは、米ソの宇宙開発と新冷戦、核保有国の核弾頭数を資料として取り上げて、冷戦期における国際秩序の中で、米ソの軍拡競争と宇宙開発競争とがどのように関連しているのかについて理解ができていないかを問うた。問4・5・6の正答率は低かったが、識別力は妥当であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問

Aでは、問1は、君主の定義という概念と国民国家との関係性について、平易な表現の選択肢で問う、非常に工夫された問題、との評価を受け、問2は、単なる年号の暗記ではなく、論理整合性に基いた思考力・判断力・表現力等を問う問題との評価を受けた。今後も、こうした概念的理解と知識の理解をバランスよく問う出題を心掛けたい。一方、問3については、選択肢の工夫次第で、より概念的理解を問う問題になった可能性を指摘された。今後は単なる知識を問う設問にならないように注意したい。

Bは、世界史の授業での発表に向けた準備作業中の会話という設定であり、望ましい世界史学習の再現という点でよく考えられているとの評価を受けた。問5が、年代序列問題であり、歴史的な事象相互の因果関係についての思考・判断を促す問いで、単純な年号の暗記的知識を求める問題作成からの脱却が図られていると評価された。問6は、複数の時代を扱っている点に工夫が見られるという評価を受けた。今後も、以上のような積極的評価を受けられる特徴を持った出題を意欲的に行いたい。

第2問

Aでは、問2は二つの風刺画から読み取れる情報をもとに、既習知識を組み合わせる知識・技

能を問う良問であると評価された。問3は風刺画の読み取りを踏まえて、第一次世界大戦の直前の国際関係の包括的理解を問う問題であり、問2との関連性が評価された。今後も、小問同士の関連性を意識した上で、包括的な知識を問う出題を積極的に行うべきと考える。

Bでは、問5は、地図問題と組み合わせるなど、工夫された問題であったとの評価を受けた。問6は、単純な概念用語の確認ではなく、それぞれ資料などと組み合わせることで、知識・技能をとおして概念的理解を問う良問となったとの評価を受けた。指摘を踏まえ、今後も思考力・判断力・表現力等を問う形の問題が作成できるよう心掛けたい。

第3問

Aでは、問3は、近代建築におけるガラスの位置付けなどの知識と組み合わせることで出題すれば、思考力・判断力・表現力等を問う問題になったのではないかと指摘を受けた。今後は、思考力・判断力・表現力等を問うように、現代社会へとつながる問題として出題形式をさらに工夫していきたい。

Bでは、問5は事実上の二択になっている点が惜しまれるとの指摘を受けた。問6は、選択肢の文章や資料の使い方を工夫することによって、公民権運動についての概念的理解を問う問題になった可能性があったとの指摘を受けた。今後は資料の使い方を工夫しつつ、よりよい問題の作成に努めたい。

第4問

Aでは、問3は、フェリペ2世の意図についての概念的理解と思考力・判断力・表現力等を問う良問であるとの評価を受けた。絵画の読み取りから得られた具体的な情報を抽象化し、概念的な理解に昇華させる点で、高い評価となったと考える。今後も、こうした問題の作成に尽力したい。

Bでは、問4は会話文の読み取りから、文字の持つ象徴性についての概念的理解を問う良問と評価された。問6は、アイグン条約についての地理的理解とともに、琉球国王の印に満洲文字が刻まれた背景となる、東アジアの国際関係についての包括的な理解も求められている良問との評価を受けた。今後もこうした概念的理解や地理的理解、国際関係を包括的に考えさせる出題を積極的に行っていきたい。

第5問

Aでは、問3は、歴史上の民族自決について述べた二文の正誤を問う問題であったが、選択肢の文章を工夫し、アフリカの植民地に関する資料を新たに提示したりすることによって、民族自決についての概念的理解を問う問題になった可能性があるとの指摘された。今後は、事実的知識を問う問題にとどまらず、概念的理解を問う出題形式を工夫していきたい。

Bでは、問5は会話文から歴史的事象を読み取り、その事象に関する知識を確認する、知識と技能を関連させた問題、問6はグラフから読み取った情報を基に、核軍縮についての事実的知識を踏まえて関連性を考察する、思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を受けた。今後もそうした方向での問題作成を継続したい。

4 ま と め

以上、問題作成部会として、各問の出題意図と、設問に対して寄せられた意見・評価に対する見解を述べてきた。最後に総合的な意見・評価についての問題作成部会の見解を述べ、問題作成に当たっての留意点についてまとめておきたい。

分量については、受験者が余裕をもって時間内に解答できる適切なものであると評価された。難易度についても、適切であったとの評価であった。ちなみに、昨年度の平均点は36.32点に低下したが、今年度は42.16点に上昇し、一昨年度までの水準と同程度に戻った。

出題のバランスについては、分野別で見ると、今年度も「政治史」からの出題率が86.7%と極めて高かった。また地域別では、「西欧・北米」の割合が43.3%であり、「南・東南アジア」と「中南米・オセアニア」の設問はゼロであった。指摘にもあるように、こうした偏りを改善できなかったことは、今年度の反省点であったかと感じられる。ただし、時代別に関しては、「近現代史」に重点を置いて出題しており、教科の特性から考えると、妥当なバランスであったと判断される。

本部会では、共通テストの趣旨に基づいて、リード文や資料を見ずに設問文だけで正答が導き出せるような出題形式から脱却することを目指してきた。本年度は設問形式として「主に知識・技能を評価するもの」が多かったわけだが、そこでも風刺画・絵画・グラフなどの様々な資料を活用して、事実に知識にとどまらず、概念的理解をも求める問題となるように心掛けた。こうした試みを全ての設問において完全に実現できたわけではないが、今後も本部会では同様の方向性で改善を進めていきたい。

なお、指摘いただいたとおり、今年度は、新教科の「歴史総合」を強く意識して作成したところがある。日本を世界との関わりの中での歴史的に考えさせる問題や、核兵器の削減といった人類全体で取り組むべき現代的な課題を扱う問いも設けた。特に後者は、素材（グラフ）においても新教科との連動を意識した。

「世界史A」の問題作成は次年度が最後となる。教科書の記載などに関するご指摘もいただいたが、これまでも、学習指導要領・教科書の記載内容やテーマに即した問題作成に細心の注意を払ってきており、今後も変わらず継続していきたい。これからも、様々な指摘・意見を踏まえつつ、単純な知識問題に帰結することなく、基礎的な歴史知識を活かした歴史的思考に基づいて解答できるような、受験者の思考力・判断力・表現力等を測定しうる設問を考案するよう、今後とも問題作成の改善に努めたい。

世界史 B

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

第1問は「世界史上に見られた体制や制度」をテーマとし、各国に見られた様々な体制や制度の変遷や歴史的役割について、その意義を考えさせる問題である。

Aでは、中国の封建制の議論に関する資料を素材とし、一族に対する分権について、世界史で学んだ知識と資料とを関連付けて考察する力を問うた。正答率はばらつきがあったが、識別力には問題はない。特に、問6は特に識別力に優れた小問と考えられる。

Bでは、ノルマン=コンクエストに関する二つの資料を比較検討して、歴史的事象に対して複数の見方があることを理解し、歴史的事象を多角的・多面的に見ることの重要性を理解させることを目的とした。いずれの小問についても極端な解答結果は出ておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

Cでは、イギリスの福祉制度の改革をテーマとして、イギリス首相のインタビューの発言を資料として取り上げながら、既習知識と資料から読み取った情報とを関連付けて考察する力を問うた。いずれの小問についても、正答率・識別力の点で概ね妥当であった。

第2問

第2問は、「世界史における諸勢力の支配や拡大」をテーマとし、古代から近現代までのそれぞれの歴史的事象を素材について、それぞれの関係性について解答させる問題である。

Aでは、アレクサンドロスの東方遠征を題材として、資料を基に、アレクサンドロスのアジア支配の特徴と後代のその評価について考察する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出ておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

Bでは、アメリカ合衆国の西部開拓とその促進要因について、複数の資料を基に、アメリカ合衆国の領土拡大は、一方で先住民強制移住により土地を奪うプロセスと、他方で奴隷制の拡大による南北の対立の激化をもたらした点を問う連動問題を出題した。連動問題の正答間に選択率・正答率の差があった。

Cでは、朝鮮戦争を素材とし、スターリンが毛沢東に送った書簡を資料として取り上げた。資料の読み取りをとおして、当時の国際情勢におけるスターリンと毛沢東との関係性についての理解を求めた。問7の正答率が若干低いですが、全体としては正答率・識別力は妥当であった。

第3問

第3問は、「世界市場における交通の発達とその影響」をテーマとし、世界の諸地域において歴史上に見られた交通の発達が、それぞれの地域社会にどのような影響を与えたのかについて考

えさせる問題とした。

Aでは、南アジアを素材として、インドの陸上交通路の発達の過程と、それがインドの歴史にどのような影響を与えたのかについて、二枚の地図を比較検討しながら考えさせる問題にした。いずれの小問も極端な解答結果は出ておらず、正答率・識別力の点において妥当であった。

Bでは、アメリカ合衆国の鉄道輸送量に関する統計を素材とし、近現代における世界史上の出来事について、既習知識とグラフから読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出ておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

Cでは、ロシアのチャイコフスキーのパトロンからの手紙を素材として、当時のロシアの社会情勢について話し合う場面を取り上げて、フランスとの関係やシベリア鉄道の建設などのロシアにおける社会情勢の変化について考察させた。正答率にややばらつきがみられるものの、概ね問題はないと考える。

第4問

第4問は、「歴史上見られた様々な民族におけるアイデンティティの在り方」をテーマとし、シリア語、スペインやポルトガルの国語の成立、漢字を取り上げて、それぞれの言語や文字とともに、それらを含む文化の発展について解答させる問題である。

Aでは、「大秦景教流行中国碑」を素材として、西アジア地域やイスラーム世界の文化や制度、シリア語を使用した人々の活動について、既習知識とリード文の内容とを関連付けて考察する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出ておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

Bでは、「新大陸」を「発見」したコロンブスについて、その出身地に関する話を話題とし、その背景にある、スペインやポルトガルにおける「国語」の成立に関する状況について問うた。

Cでは、唐代の顔真卿の書を取り上げて、中国で起こった反乱や中国文化の特徴について、内容的理解と概念的理解を問うた。問8・9の正答率がやや低かったが、適正の範囲内と考える。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問

Aでは、問3が資料を基に歴史の事象を構造化して類型化することが求められる点で、受験者が歴史の事象の再解釈を求められる点で良問として、特に高い評価を受けた。来年度以降も、歴史事象を構造化して比較する問題を取り入れられるよう心掛けたい。

Bでは、問5は平易ではあるが、命題の一つが資料の書き手の立場性に着目するものである点で、資料読解の方法を問う問題として工夫がみられるとの評価を得た。今後も、歴史総合でも重視される資料読解の試みは積極的に進めたい。

Cでは、問9は、資料の読み取りを基に、新自由主義についての概念的理解が求められる、知識・技能を問う良問であるとの評価を受けた。今後も思考力・判断力・表現力等を問うような、資料をより積極的に活用する問題の出題形式を工夫していきたい。

第2問

Aでは、問2が歴史を多角的、総合的に考察させる点で、良問であるとの評価を受けた。根拠となる資料を考えさせるような問いの立て方をすれば、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題へと、さらに発展させられる可能性もあったとの指摘は、次回以降に生かしていきたい。

Bでは、本試験で初めて連動問題を出題した。問5は、選択する事象の原因として法律を考察させるなど、連動問題の良さを生かした問題に発展できる可能性があるとの評価された。今後も連

動問題の良さを生かせるような問題作成に努めたい。またその際、正答肢同士の難易度を合わせるなどの工夫をしていきたい。

Cでは、問6はリード文から容易に特定できるため、出題方法に工夫が求められるという評価が、問7は、冷戦構造形成期における各事象の歴史的意義への理解を問うもので、包括的な理解を問う良問であるという評価を受けた。問8は、グラフの読み取りが平易すぎるため、米ソの事象や複数の資料を連動させることで思考力・判断力・表現力等を問う問題に昇華できた可能性があるという指摘があった。今後もリード文と資料の組合せ方を工夫したい。

第3問

Aでは、問2は、地名を空欄にし、地図からデリーを特定するような工夫があったのではないかと、という指摘を受けた。今後の問題作成に生かしていきたい。問3については、地図の使い方に工夫が見られ、良問であるとの評価を得た。

Bでは、問4は、選択肢を工夫して経済に関わる事象とすることで、推移を考察する思考の問題に発展できた可能性があるとの意見も見られた。問5は、歴史の知識を生きた知識にするためのプロセスが組み込まれていると評価された一方で、資料の組合せや選択肢を工夫することで、より深い思考を導くことができた可能性もあるとの指摘を受けた。今後もこれらの意見を踏まえて、より良い問題の作成に努めたい。

Cでは、問7は資料と会話文から読み取った情報を基に、既知の知識を概念化することが求められる、思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を受けた。さらに問7について、受験者が受験をとおして知識を文脈の中に置き、新しい意味付けをしていくような問題であり、歴史の入試問題として望ましいという評価も得た。今後も、このように多様な能力を問う出題を目指したい。

第4問

Aでは、問2は事実的知識を問う問題であり、選択肢や問い方を工夫することで、世界史探究における「諸地域の交流・再編」が視野に入る問題にもなり得たとの指摘を受けた。また、問3は資料と会話文から読み取った情報で既知の知識に新しい意味づけをする、思考力・判断力・表現力等を問う良問と評価された。今後も既知の知識を基にテーマ内容を広く考えさせる出題形式を工夫していきたい。

Bでは、問5は、ポルトガル王室がコロンブスを支援しなかった理由について、推察される仮説の根拠を問う問題であり、また問6は、「コロンブスはスペイン人である」という誤った説に対して、文章から読み取れる思い込みの内容と背景にある価値観について正しい組合せを選択する問題であり、いずれの問題も、思考力・判断力・表現力等を問う良問であるとの評価を受けた。今後も、こうした設問を継続的に出題したい。

Cでは、問9は、メモ中の文言（「自文化を維持しつつ」）がなければ、当該の二つの王朝を類型化して比較する、思考力・判断力・表現力等を問う、より良い問題になり得たとの指摘を受けた。今後も指摘を踏まえてさらに改善を目指したい。

4 ま と め

以上、問題作成部会として、各問の出題意図と、設問に対して寄せられた意見・評価に対する見解を述べてきた。最後に総合的な意見・評価についての問題作成部会の見解を述べ、問題作成に当たっての留意点についてまとめておきたい。

分量については、昨年度と同様に「試験時間に見合った適切なもの」との評価を得た。ただし、指摘いただいた点をしっかりと踏まえて、受験者の負担軽減を第一に考え、今後も文章のスリム化

を心掛けつつ問題作成に当たりたい。出題のバランスについては、地域・分野・時代の全てにおいてバランスをとるべく留意した。地域別にみると、今年度も「西欧・北米」からの出題率が45.5%と、割合的には最も高かったが、その他については地域的に偏りがないように配慮した。分野別においても、従来と同じく「政治史」偏重の傾向にあるけれども、「社会経済史」から5題、「文化史」から6題の問いを設けて、バランスを図ろうとした。時代別に関しては、「古代史」から「現代史」まで万遍なく出題した。バランスとしては、昨年度と比較すると、より適切であったかと思われる。難易度については、前年度よりも平均点が上昇し、相対的には易化したと判断される。ただし、今年度も「大学入学希望者の学力を測る上では適切であった」との評価を受けており、この点については問題ないものと思われる。

本年度の問題では、複数選択肢連動型問題の出題に挑戦した。これまでの共通テストにおいては、大学入学共通テスト問題作成方針に則って、グラフ・写真・文章資料などの多様な歴史資料を提示しつつ、そうした諸資料の読解に基づく考察や内容の理解に立脚した包括的知識を問おうとする問題作成に努めてきた。また、高等学校の歴史の授業を通じて身につけた「探究のサイクル」についての習熟度を考查すべく、仮説の妥当性を論理整合的に検証させる問題の作成にも取り組んできた。こうした試みの延長として、今年度は連動型問題の作成に挑んだ次第である。複数の正答があるなか、前後の問いをつなげて妥当な組合せを判断させる問題は、受験者の思考力・判断力・表現力等を測るものとして、適正な設問の形式であると思われる。「歴史総合」「世界史探究」においては、受験者の「探究的な学び」がより一層求められることになり、次年度以降の共通テストでは、このような受験者の資質をしっかりと評価しうる問題の作成に傾注しなければならない。仮説についての出題はもとより、本年度挑んだ連動型問題作成の常態化は、指摘のとおり、今後必然の方向性であろうと本部会は考えている。

「世界史B」の問題作成は次年度が最後となる。教科書の記載などに関するご指摘もいただいたが、これまでも、学習指導要領・教科書のテーマに即した問題作成に細心の注意を払ってきており、今後も変わらず継続していきたい。これからも、様々な指摘・意見を踏まえつつ、単純な知識問題に帰結することなく、基礎的な歴史知識を活かした歴史的思考に基づいて解答できるような、受験者の思考力・判断力・表現力等を測定しうる問題を作りたい。また、資料やリード文から読み取れる情報を基にして、既習内容から得られた包括的・概念的理解を踏まえつつ、論理的に考察し構想することで正答にたどり着く問題を考案するよう、今後とも問題作成の改善に努めたい。